Osaka University Knowledge Archive

Title	医薬品分野における人材育成に関する研究 : マラウイの保健医療従事者に対する教育研修の分析調査
Author(s)	荒木, 京子
Citation	大阪大学, 2009, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/57695
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

【8】

氏　　名	荒　木　京　子（あら き きょう こ）
博士の専攻分野の名称	博　士（人間科学）
学　位　記　番　号	第　２３３３０　号
学 位 授 与 年 月 日	平成21年９月25日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第４条第１項該当 人間科学研究科人間科学専攻
学　位　論　文　名	**医薬品分野における人材育成に関する研究－マラウイの保健医療従事者に対する教育研修の分析調査－**
論 文 審 査 委 員	（主査） 教　授　中村　安秀 （副査） 教　授　堤　　修三　　准教授　草郷　孝好

論 文 内 容 の 要 旨

保健医療分野における人材育成は国際社会の大きな課題であり、WHO（世界保健機関）においても人材育成に積極的に取り組んでいる。アフリカにはたった4%の保健人材しかいないにもかかわらず、全世界の疾病負担の25%を担っている。特にサブサハラ・アフリカにおいては全世界のHIV感染者の約70%が集中しているので疾病負担が大きい。以前に青年海外協力隊や国際協力機構の医薬品専門家としてサブサハラ・アフリカで活動した経験を活かし、サブサハラ・アフリカの最貧国の一つであり、主要保健医療指標の妊産婦死亡率や5歳未満児死亡率が悪いマラウイを研究対象国にした。

マラウイは、医療サービスへのアクセスが悪く、患者は重症になってから保健医療施設を訪れるため治療を困難にしている。予防教育が不十分で、マラリア、肺結核、HIV/エイズなどの感染症治療のために医薬品に依存する割合が大きい。保健予算に占める医薬品費の割合はおよそ3分の１を占めている。マラウイでは、人口1,390万人に対して、薬剤師は58人に過ぎず、その多くが政府保健医療関係ではなく、民間企業やNGOに勤務していた。実際に多くの保健医療機関で医薬品業務を担当していたのは、医助手、看護師などであり、そのほとんどは十分なPre-service trainingを受けていなかった。保健医療施設では医薬品不足を来すことがしばしばあり、患者は町の薬局で医薬品を購入しなければならなかった。医薬品不足を防ぐために医薬品取り扱い従事者の医薬品管理能力を向上させることは緊急の課題である。WHOや米国国際開発庁（USAID）は、「マラウイでは医薬品の供給と管理が非効率である」と指摘した。日々の医薬品調達と管理を行うに必要な知識、スキル、意識と価値観を持った医薬品専門家を養成することが、短期及び長期ベースで医薬品の浪費を避け、医薬品予算を抑制するのに効果があると考えられている。

第1章では、本研究の目的と概要について述べた。マラウイにおいては保健医療人材が不足している。教育研修の視点から保健医療従事者の養成はどのようになされているか、また卒業後の研修はどのようになされているか調査検討した。本研究の目的は、筆者の薬剤師の立場から薬剤師教育に特に興味を持ち、誰が医薬品管理を行っているのか、医薬品を取り扱っている保健医療従事者の職種と人数はどのようになっているのか、これらの従事者のPre-service trainingとIn-service trainingは充分なのかについて実証的に考察し論じることであった。

第2章においては、マラウイの背景を理解するために地理、歴史、経済、社会、政治、保健、教育の概略を論じた。先行研究においては、マラウイではHIV/エイズが原因による教員の減少が教育レベルの低下を招き、最適な資格のある理数科教師が不足しており、特に理数科関連の職業である医学、農学、工学に影響を与えていること

を指摘している。本章では、マラリア、肺結核、HIV/エイズなどの感染症による死亡や国外への頭脳流出が、保健医療人材の不足に影響を与えていることを論じた。

第3章においては、保健医療人材不足の世界的な状況、保健医療人材をめぐる問題点、持続的保健人材の確保、保健医療人材不足にかかる国際的な取り組みについて論じた。保健医療人材不足について論じるとともに、世界の薬剤師の現状と課題について、先進国の薬剤師不足問題、開発途上国から先進国への移動、開発途上国内における人員配置の都市部と地方の地域格差についても論じた。特にアフリカの薬剤師の現状と課題について、労働環境、国外への移動、人材不足を補うための教育政策や薬剤師協会の取り組みについて論じた。薬剤師といっても、アフリカでは先進国と保健医療事情が異なるので、期待される役割や勤務形態が異なる。薬剤師教育を自国で行い学生定員を増やしても、優秀な卒業生は欧米諸国に移住することになる。アフリカ諸国の薬剤師の現状と課題をレビューしたあと、マラウイにおける保健医療従事者の現状と課題、医薬品専門家の現状と課題について詳細に論じた。

第4章では、調査の概要、対象と方法について述べた。マラウイにおける現地調査は、2008年7月から9月にかけて実施した。調査対象機関は、保健省、国連機関、国際NGO、医師会、看護師助産師協会、保健医療機関（中央病院、県病院、CHAM病院、Rural 病院、ヘルスセンター）、保健医療従事者を養成する教育機関（大学薬学科、看護大学など）、医薬品のロジスティックに関わる中央医薬品倉庫、地方医薬品倉庫などであった。保健省あるいは県保健局からの紹介状をもとに、所属機関の許可を得て、質問ガイドを使用し一対一の対面方式によるインタビュー調査を行った。公用語は、英語とチチェワ語であるが、調査は英語で行った。

調査にあたり、大阪大学大学院人間科学研究科共生学系研究倫理委員会の承認を得た。保健医療機関22施設の調査結果から第三次、第二次医療機関の中央病院と県病院においては医薬品専門家である薬剤技術者が配置されていたが、第一次機関のRural 病院とヘルスセンターでは医薬品専門家は配置されておらず、医助手と看護師が薬局責任者として業務を行っていた。いずれの保健医療機関においても、薬局では人材不足が著明であった。経験年数の長い薬剤技術者はIn-service trainingを受ける機会が多かったが、経験年数５年以下の薬剤技術者は、受講の機会が少ないかあるいは受けていないことが明らかになった。医助手や看護師はARV取り扱い業務に就く前にIn-service trainingを受ける機会があった。教育機関の調査から、教室や学生寮の収容人数、また講師の人数に限りがあるため学生数を増やせない問題を抱えていた。図書については、1980年代や1990年代のものが多く、最新の医療知識の習得は困難であり、専門雑誌は価格が高いためにほとんど整備されていなかった。インターネットから最新の医薬学情報を得ることは可能であるが、高い接続料以外にも、アクセスが遅く、大量の情報収集には不適な環境であった。また、援助機関からは、カリキュラムの見直しなど様々なプロジェクトを通じて資金提供を受けていた。医薬品関連のIn-service trainingとしては、ユニセフ、WHOなどの国連機関、欧米の二国間援助機関、国際NGOなどが結核、抗エイズ薬、マラリア薬、医薬品管理システムなどの研修を行っていたが、相互の調整はほとんど見られなかった。

第５章では、調査結果からPre-service trainingの問題と解決に向けて学生数を増やすための施設設備の充実、講師を増やすための職員住宅の充実や教育研修の提供のために政府や援助機関の協力が必要であることを論じた。次にIn-service trainingの問題と解決に向けて、今後は、政府を中心に援助機関が協働することにより、少なくとも1施設に1人は医薬品に関するトレーニングを受けた人材を配置できるシステム作りが必要であることを論じた。

実際に多くの保健医療機関で医薬品業務を担当していたのは、医助手、看護師/助産師などであり、そのほとんどは十分なPre-service trainingを受けていなかった。また、医薬品関連のIn-service trainingとしては、国連機関や国際NGOが結核、抗エイズ薬、マラリア薬、管理システムなどの研修を行っていたが、相互の調整はほとんど見られなかった。現在、マラウイでは、抗エイズ薬の適切な処方や医薬品管理をめざし、薬剤師教育にドナー機関からの支援が始まっているが、薬剤師は教育年限が長い上に一人当たりの教育費が非常に高い。全国に約900カ所あるヘルスセンターやクリニックなどに最も必要とされていたのは、医薬品専門家としては、薬剤師ではなく、教育年限が2年と短く、教育費の安い薬剤助手であった。このようなコミュニティ・レベルで勤務する専門家は、他国に流出することも少なく、人材育成の効果がそのまま地域に還元できる。

本論文は、マラウイにおける保健医療機関の医薬品取り扱い従事者に関するPre-service trainingおよびIn-service trainingの現状と課題を明らかにした初めての論文であり、保健医療分野における人材育成に関する新たな視座を提示することができた。また、医薬品取り扱い従事者の職種と人数の実態に関する研究は非常に少なく、マラウイを含むサブサハラ・アフリカで、薬局責任者を兼ねている医助手や看護師の実態を明らかにした貴重な研究となった。

論文審査の結果の要旨

保健医療分野における人材育成は国際社会の大きな課題であり、WHO（世界保健機関）においても特にサブサハラ・アフリカにおける人材育成に積極的に取り組んでいる。著者は、以前に青年海外協力隊や国際協力機構の医薬品専門家として活動した実績を活かし、サブサハラ・アフリカの最貧国の一つであり、保健医療指標も悪いマラウイを対象国にした。保健医療機関の医薬品取り扱い従事者に関するPre-service trainingおよびIn-service trainingの現状と課題を網羅的に明らかにすることにより、国際保健分野における人材育成のあり方を考察した。

マラウイでは、人口1,390万人に対して、薬剤師は58名に過ぎず、その多くが政府保健医療機関ではなく、民間企業やNGOなどに勤務していた。実際に多くの保健医療機関で医薬品業務を担当していたのは、医助手、看護師/助産師などであり、そのほとんどは十分なPre-service trainingを受けていなかった。また、医薬品関連のIn-service trainingとしては、国連機関や国際NGOが結核、抗エイズ薬、マラリア薬、管理システムなどの研修を行っていたが、相互の調整はほとんど見られなかった。今後は、政府を中心にドナー機関が協働することにより、少なくとも一施設に１人は医薬品に関するトレーニングを受けた人材を配置できるシステム作りが必要である。

本論文は、マラウイにおける保健医療機関の医薬品取り扱い従事者に関するPre-service trainingおよびIn-service trainingの現状と課題を明らかにした初めての論文であり、保健医療分野における人材育成に関する新たな視座を提示することにより、国際保健医療協力に関する実践的研究に大きな貢献を果たした。本研究の独自性は国際的にも高く評価され、博士号授与にふさわしいと判断された。